

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表②(令和2年度版)

(様式2)

評価対象	評価項目	羅 針 盤 具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	総合			
I 3F精神に根ざす活力ある高生を育成し、活気にあふれた特色ある学校づくりに努めていますか。(全体・生徒部)	1 生活規律を確立する。	① 各学期1回挨拶週間を設定する。 ② 式展時の服装意識の向上やチャイムスタートを徹底する。 ③ SNSに関わるトラブルを無くす。	B B B	A A B	A A B	職員による年間を通しての登校時挨拶運動に加えて、生徒会生徒による取り組みも有効であった。SNSの取扱いは、年度当初に全体指導が出来なかったため、個別対応をした。	臨時休業中の学習・生活管理は学校側がリードして進めていく必要があるが、十分な対応をしてくれている。	職員と生徒がタイアップして取り組める取り組みを定期的に行いたい。
	2 交通安全を推進する。	④ 自転車重大事故0件。 ⑤ 職員・生徒で定期的に交通安全指導を行う。 ⑥ 駐輪場でのトラブルを無くす。	B B A	B A A	B A A	年間を通しての現地指導をすることで重大案件は無かった。新入生には、机上での指導も有効であった。	—	今年度は、保護者との取り組みが出来なかった。保護者や関係機関と組織的に取り組むことが必要だと改めて感じた。
	3 教育相談業務を充実させる。	⑦ 毎週教育相談・生徒部会議を実施することにより、教育相談係を中心にチームとして協力し、教員一人による抱え込みを防止するとともに、生徒・保護者がSCを有効活用するためのマネジメントを教育相談係を中心に管理する。 ⑧ いじめの発生防止に努め、発生した場合は組織的に対応して100%解消する。	A A	A A	A A	担当教諭のリーダーシップのもと情報共有がなされ、丁寧かつ迅速な対応が出来た。	コロナ禍における生徒・保護者の心情に寄り添った対応が大切である。スクールカウンセラーを軸とした学校側の対応は組織的に機能している。	係全体で定期的に集まれる時間の確保が大切である。
	4 生徒会活動を充実させる。	⑨ 定期戦74回大会の勝利・翠巒祭の成功。 ⑩ 部活動加入率の増加・高校総体優勝。上位大会への出場数を増やす。 ⑪ 地域の清掃活動や社会に貢献できるボランティア活動に取り組む。	A A C	A B C	A B C	前例に従うと言うことが出来ない状況下でありながらも現状を把握した上で、主体的に取り組ませた。地域社会とのかかわりを持つ機会をつくれなかった。	生徒にとって1年1年が大切な学校生活なので、感染対策を十分に講じながら生徒会活動は粛々と進めるべきである。これまで生徒会行事をできる範囲で実行してきたことは評価できる。	今後の状況にもよるが、対外的な発信や取り組みを積極的に行うことで、結果や成果にも表れてくると感じている。
II 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努めていますか。(保健環境部・事務部)	5 健康な身体と健全な精神を育成するため、自主的・積極的に心身を鍛えることができる資質・能力を養う。	⑫ 「保健だより」を毎月発行する。 ⑬ 家庭に向けての受診の呼びかけを強化する。	B B	B B	B B	今年度は新型コロナウイルス感染防止対策についての発信が主であり、各家庭へ向けて注意喚起を行った。	保健だより等を通じて、生徒・保護者へ感染対策の方策を周知することを粘り強く行う必要がある。	新型コロナウイルス感染症以外の健康関連情報の発信や、受診の呼びかけについても強化したい。
	6 健康的で落ち着いた集団生活を維持するために、安全で衛生的、かつ快適な学習環境を整備する。	⑭ 保健委員による校内巡視を毎月実施する。 ⑮ 学習環境が快適であると感じている生徒が80%以上である。	B A	B A	B A	コロナ対策として、消毒・除菌作業を定期的に行いながら巡回したことが、結果的に学習環境の整備に繋がった。	感染者が出た場合の対応は、事前にマニュアルを作成しておいて情報を一元化し、学校間で差がないようにすることが大切である。	アルコール消毒や手洗いの習慣を徹底させ、学習環境に対する意識の向上を図りたい。
	7 校内美化の推進及びゴミの分別・減量を徹底し、リサイクル活動に取り組み、省エネエコ活動を推進する。	⑯ ゴミの分別を徹底する。	B	B	B	新型コロナウイルス感染防止対策としてゴミ箱を撤去した結果、ゴミを減量することができた。	—	ゴミの分別について、徹底させたい。
	8 防災意識を高める。	⑰ 訓練時の行動に関する生徒の自己評価が90%以上である。	A	A	A	コロナ禍の影響もあり、防災意識は向上した。	危機管理体制は整っていると判断できる。	想定される災害について、見直しをする。
III PTA・同窓会・地域と連携し、本校の教育活動を発展させていますか。(広報渉外部)	9 PTAから信頼される学校を目指す。	⑱ PTA総会の出席率が60%を超える。 ⑲ 学年保護者会に出席率が90%を超える。	B B	B B	B B	PTA総会は、書面評決になり、83%の返信があった。保護者集会は3年の出席率が92.3%、全体では87.3%だった。	—	参加して頂けるような魅力のある行事に発展させていきたい。
	10 同窓会から大いに支援される学校を目指す。	⑳ 同窓会新年総会、常任理事会、理事会で毎回現況を報告する。 ㉑ 「先輩教えてください！」を40以上の事業で行っていただくとともに、内容の充実・発展に努める。	A A	A A	A A	同窓会理事会等で、双方向のやりとりが行えた。 「先輩教えてください！」は44以上の事業所で実施して頂き、事業を継続させていくような素地を作ることができた。	「先輩教えてください！」事業は回数を重ねる毎に洗練されて、今回は探究的手法が取り入れられていて充実していた。	同窓会との良好な関係が続くように、
	11 地域から信頼される学校を目指す。	㉒ 「翠巒セミナー」に地域の方々に5人以上参加いただくとともに、内容の充実・発展に努める。	A	A	A	翠巒セミナーはリモート開催になったため、地域の方々に案内を出さなかった。内容は充実したものになった。	—	内容や事業の周知について、さらなる充実に努める。
	12 情報管理を徹底した上で、情報モラル、セキュリティの意識向上を図るとともに、Webページを随時更新することで地域に向けて積極的に情報を発信する。	㉓ 職員の情報モラル、情報セキュリティの意識向上を図る。 ㉔ 常にWebページを最新の情報に保つ。	A A	A A	A A	校内PCのセキュリティは教育センターが一括管理しているため、情報セキュリティは向上している。また、教育センターの指示に従って職員へアンケート等を実施し、意識向上を図った。新型コロナウイルスに関わる連絡は素早くWebページへ掲載し、情報発信することができた。	生徒・保護者等にとって必要な情報がリアルタイムに発信されていて十分機能している。	1人1台端末が推進されるとクラウドの利用が高まると予想されるため、情報モラルや情報セキュリティの意識徹底を図る。行事の様子などをWebページに掲載することで、学校行事の情報発信に努める。

群馬県立高崎高等学校(全日制)学校評価一覧表②(令和2年度版)

(様式2)

評価対象	評価項目	具体的数値項目	達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
			①	②	総合			
IV 質が高く、内容が豊かな「力のつく授業」を展開し、学力を向上させていますか。(教務部)	13 適切に授業時間を確保し、力のつく教育課程を編成し実施する。	㉕ 臨時時間割の、行事前の日程に余裕を持った提示と、入替の、年間行事予定表への記載。新学習指導要領に対応する教育課程の編成する。	A	A	A	職員アンケートでは授業時間確保に努力していると感じるが、強く感じているとある程度感じているで100%であった。令和4年度入学生教育課程案をさらに見直したい。	—	授業カットや授業変更を有効に実施し、100%を目指したい。また、引き続き緊急事態にも柔軟に対応したい。
	14 校内諸活動計画の調整を行う。	㉖ 調整ミスによる直前の計画変更や、当日の中止といった事態を起こさないこと。	A	A	A	各分掌・各学年との連絡は継続して密にしている。	—	授業時間を適切に管理していきたい。校内の連携のみでなく、校外の関係部署とも連絡を密にする。
	15 教員個々及び集団としての教科指導力の向上と授業改善を推進する。	㉗ 教科の枠を超えた教員同士の授業参観と指導方法の研修を年2回以上実施する。 ㉘ 新しいシラバスを評価する生徒が80%以上である。	A B	A B	A B	授業改善については教科間の授業参観、及び教科を超えた授業参観を行い、授業研究を実施した。教員同士の授業参観と指導方法の研修についての推進は、強くある程度感じているを合わせて100%である。シラバスの満足度は92%と昨年より2ポイント減少したが、臨時休校等の影響があると思われる。	先生方が生き生きと授業されている様子はから、教師の教えたい気持ちが伝わってくるし、教材研究への向上心が窺える。	さらに研修を進めるために求められるテーマを研究したい。シラバスは、内容を部分改訂し、生徒、職員もさらに読み込むシラバスにしたい。
	16 成績処理・各種教務関係書類作成等の事務を正確かつ適正に実行する。	㉙ 教務部の係ごとの打合せ回数を増やす。	A	A	A	教務関係の業務分担を確認し、書類等のチェック機能を強化している。	—	広報渉外部と連携し、成績処理等のマニュアルをさらに見直していきたい。教務部の業務分担を見直し、係主導体制を確立したい。
V 3年間を見通したキャリア教育を推進し、進路目標を達成した上で、自己実現を図っていますか。(進路部)	17 高い志を育成し、学ぶ意味を知り、自ら学ぶ生徒を育てる。	㉚ 学習時間の増加 部で活動中：平日最低2.5時間 部活引退後：平日最低3.5時間 ㉛ 1年次：志の明確化 2年次：学部・学科の明確化と志望大学の決定 3年次：受験大学の確定 ㉜ 志と夢、志望大・学部・学科の明確化 ㉝ 志の明確化と夢を叶えるための具体的道筋の理解	A B A A	A B A A	A B A A	キャリアリサーチの活用とSSH活動の実施により、学ぶ意味を知り、目標に向かい自ら学べる生徒が増えている。その結果として、学習時間は増加した。各行時の目標の明確化と共有により、効果増大を狙ったが、コロナの影響で実施できない行事が多かった。それを補うために、個別面談を重視し、具体的道筋を示した。	大学の先生や社会人講師を招いての講演会を計画的に実施しているので生徒の職業観や人生観を育成する良い機会になっている。2・3年次での実施回数を増やしても良い。	今後も、キャリアリサーチや卒業生の活用、SSH活動の実施により、志の育成、夢を叶えるための具体的道筋の明示に努める。シラバスの活用によりやるべき事を明確にし学習時間の増加につなげる。また、コロナの状況下でも出来ることを模索して志の育成に努める。
	18 学力・進学実績の向上を達成する。	㉞ 授業観察・授業研修と生徒によるアンケートの活用 ㉟ 模試の成績向上 1年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 2年次：英数国総合ベネッセ偏差値 65 3年次：英数国総合ベネッセ偏差値 62 ㊱ 教師・生徒の信頼関係の向上と模試の成績向上	A B A	A A A	A A A	シラバスの改訂を行い、それを使い何をどのように学ぶのかを指導した。このことにより、学ぶ姿勢はより前向きなものになった。更に、指導力の向上に努めた結果、生徒との信頼関係は高まり、前年に比べ成績も上がっている。	生徒の学力の向上や学習保障のために学校側はリモート授業や補習等を含めて組織的に十分な対応をしている。それが結果にも結びついている。	授業評価のフィードバックと授業研修により指導力の向上を更に推し進めていく。また、生徒へ、やることの明確化と指示の徹底を行い、授業を中心とした学習スタイルを定着させる。
VI SSH事業を効果的に運営して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を育成していますか。(SSH部)	19 課題研究やクロスカリキュラム(国語力の育成を含む)は全職員体制で取り組む。	㊲ クロスカリキュラムの実践事例が16事例以上。 ㊳ 教材開発・授業検討を含めて、クロスカリキュラムの取組みをしたことのある教員が80%以上。	— —	A C	A C	授業改善研修によって事例は増えたが、代表者が実践をしている段階である。	—	計画的に授業改善研修を繰り返し、クロスカリキュラムの実践を経験したことのある教員を増やす。
	20 サイエンス・プロジェクトI・IIβにおいてR-PDCAサイクルを実践する中で課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度の基盤を主として育成する。	㊴ 職員間で具体的に育成すべき生徒像や課題研究の指導方法を共有できている状態で課題研究I・IIβの指導に職員があたる。 ㊵ 1学年及び2学年全体で実施の課題研究終了時にR-PDCAサイクルの一連の流れを経験している生徒が70%以上である。	— —	A A	A A	課題研究の指導方針はサイエンス・プロジェクトの打ち合わせによって共有できている。生徒達も課題研究を主体的に取り組んでいる。	—	課題研究のますますの浸透を図り、教員も指導力向上に努めながら、生徒がさらに主体的かつ内容を進化させて実施できるようにする。
	21 SSHクラスにおいて、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、主体的に学ぶ態度を主として課題研究II・IIIやクロスカリキュラムの活動を通して深化させる。	㊶ SSHクラスの90%が3学年の課題研究終了時にR-PDCAサイクルを一巡できている。 ㊷ 統計学や数理モデルの考え方を活用した課題研究を行う生徒が全体の60%のグループで現れている。	— —	B A	B A	SSHクラスの課題研究はカリキュラムが安定してきたが、少し忙しい状況があるため、効果的なデータ測定法等を教員も補助できるよう指導力向上に努める。	—	SSHクラスの課題研究ではデータの定量化及びデータの統計的扱いができる状態での課題研究を推進する。
	22 スーパーサイエンス部の活動を一層普及させ、科学に対する興味関心を向上させるとともに自己実現に向けて主体的に学ぶ態度を育成する。	㊸ SSH事業の課外活動に対してSSH事業の課外講座に定員の80%を超える生徒が参加できるようにする。	B	A	A	新型コロナウイルス対策により、予定していた活動は中止または縮小となっており、少ない募集人数の中では集まったが、今後は情勢とともに通常の活動の実施が望まれる。	SSHの手法を用いた教育活動によって生徒の主体的に学ぶ態度の育成が十分にされているが、3年間の中での計画性・継続性が必要である。	コロナウイルスの拡大防止に努めながらも、計画的にSSHの課外活動を増やしていき、多くの生徒が参加する状況をつくる。
VII 読書習慣を形成し、図書館活用の活性化を図っていますか。(広報渉外部)	23 生徒の読書習慣を早期に育成する。	㊹ 貸出冊数が2000冊を超える。 ㊺ 月平均300人以上が図書館を利用する。	A B	A B	A B	新着任の教職員をはじめ、定期的に発行されるインフォメーション中で図書委員と職員とが本を紹介した。貸出数は1月段階で1,900冊を超えている。	活字から情報を得る習慣の確立に尽力しているが、粘り強く推進していく必要を感じる。	教職員にも読書を促す必要がある。各教科と連携して図書館の有効利用を模索する。
	24 図書館利用の活性化と蔵書管理を徹底する。	㊻ 多読者・多読クラスへの表彰。 ㊼ ビブリオバトル県大会優勝。	B B	B B	B B	多読の基準が曖昧であることに加え、個人情報に関わる問題も考慮し、今年度の表彰は見送った。	—	多読者表彰以前にまず、利用者の裾野を広げることが急務であるという認識を共有したい。
	25 図書委員会の活動を充実させる。	㊽ 「図書館便り」の月1回発行。	A	B	A	番外編を含めれば、月1回の発行が達成できた。	—	生徒主体による発行を目指すとともに、担当職員の輪番制も検討する。
	26 SSH課題研究論文の作成を支援する。	㊾ SSH関連図書を100冊以上収蔵する。	B	B	B	SSH(1学年課題研究を含む)関連の図書は100冊を超え、蔵書も充実してきた。	—	1学年との連絡、課題研究のタイトル等の情報共有を図る。